

令和4年3月9日

発 言 者	発 言 要 旨
山科委員	<p>酒田工業用水道における塩水遡上に対する取組状況はどうか。また、老朽化している施設の耐震化対策など今後の取組み方針はどうか。</p>
水道事業課長	<p>河川の流量が減った場合に河口から塩水が取水口まで到達するという事象が発生しており、利用者である事業者等の操業に影響が出ることから、取水口の上流に水中ポンプ6台を設置し塩水の入っていない水を取水口まで送水できるようにしている。来年度も必要に応じこのような対応ができるよう仮設取水実施のための予算を計上している。</p> <p>また、送水管は老朽化対策と併せ耐震化事業を実施する。現在は住宅地の路地にも埋設していることから、新たなルートを検討を行っており、令和4年度は新ルートに基づいた詳細設計を行い、5年度から7年度にかけて工事を実施する予定である。遊摺部浄水場についても、法定耐用年数60年を経過していることから、今後大規模改修が必要であり、来年度、最適な工法など検討していくこととしている。</p>
山科委員	<p>精密機器製造などの企業振興には欠かせない工業用水道事業について、今後、どのような方針で取り組んでいくのか。</p>
水道事業課長	<p>地域の産業に貢献している工業用水道事業については、できるだけ安い料金で、安定的に供給していくということが重要と考えている。3工業用水道のうち、八幡原、福田については、給水開始から30年経過し、今後、更新等が必要な施設が多くあることから、計画的に施設更新を実施し、長寿命化と経営の安定化を図りながら、地域の産業に貢献していきたい。</p>
山科委員	<p>令和4年度当初予算に計上しているポンプの更新の詳細はどうか。</p>
水道事業課長	<p>地下水を利用している福田工業用水道について、現在、井戸が一本しかなく、万が一使えなくなった場合に給水に支障が出ることから、新たな井戸を建設して二本体制にし、安定供給を図っていくものである。</p>
山科委員	<p>施設の老朽化対策に必要な財源の確保や財源基盤の強化のためには債券購入による資金運用が有効であるが、安全性や収益の見通しなど債券による資金運用の基本的な考え方はどうか。</p>
財務主幹	<p>水道用水供給事業で165億円、資産運用事業で25億円の計190億円、毎年38億円を5年間にわたって債券を購入していく。信用力が高い評価となっている電力会社、NEXCO、財投機関である住宅金融支援機構が発行する債券を購入し安全性を確保することとしている。また、今年度購入した債券の利率などを前提とした場合、190億円の債券購入が完了する令和7年度からの10年間の利息収入を3億円程度と試算している。債券購入に充てる財源は、企業局の内部資金や毎年の利益を積み立てたものとなる。</p>
山科委員	<p>昨年6月に千葉県八街市で発生した、下校中の児童5人が死傷する交通事故を受け、文部科学省、国土交通省、警察庁の3省庁が連携し、通学路における交通安全</p>

発 言 者	発 言 要 旨
道路整備課長	<p>を一層確保するため全国一斉に合同点検を実施しているが、本県の合同点検の結果と、全国、東北との比較状況はどうか。</p> <p>合同点検を実施した結果、県内での対策必要箇所は704箇所となっている。全国では約76,400箇所、1都道府県あたり約1,600箇所となる。東北では約5,500箇所、1県あたり約900箇所となる。また、1校あたりで見ると、本県は3.02箇所となり、全国平均3.95箇所、東北平均3.15箇所より少ない状況となっている。</p>
山科委員	<p>本県の対策必要箇所704箇所について、対策を行う機関ごとの箇所数はどうか。</p>
道路整備課長	<p>学校・教育委員会が486箇所、警察が204箇所、道路管理者が406箇所、このうち県が管理する道路は196箇所となっている。複数の機関で対応する箇所もあるため、重複した箇所数となっている。</p>
山科委員	<p>道路管理者として、どのように対策を進めていくのか。</p>
道路整備課長	<p>重要な視点が二つある。一つ目は「歩行者と車両の分離」で、歩道を設置し、物理的に車道と歩道を分離することが最も安全性が高い方法だと考える。また、車道と歩道を分離していても、車両用防護柵が無い危険箇所には、防護柵等の設置なども実施している。</p> <p>二つ目は「自動車の速度の抑制」で、視覚的に車道の幅を狭く見せることにより、車の走行速度の抑制を図る方法であり、ドットライン標示やカラー舗装などを実施している。</p>
山科委員	<p>道路管理者が行う対策の内訳はどうか。</p>
道路整備課長	<p>歩道の設置や拡幅などが35箇所、車両用防護柵の設置が32箇所、路面標示や路側帯のカラー舗装化が41箇所、外側線の引き直しなどが114箇所となっている。複数の対策を行う箇所もあるため、重複した箇所数となっている。</p>
山科委員	<p>これまでの対策状況及び今後の対応はどうか。</p>
道路整備課長	<p>対策必要箇所196箇所のうち約4割で対策が完了、約4割で継続して対策を実施中、残り2割についても出来るだけ早期に対応したい。今後も、学校・教育委員会、警察とも連携し、ハード・ソフト両面の対策を総合的に検討しながら、様々な対策を実施し、通学路の交通安全の確保に取り組んでいきたい。</p>
山科委員	<p>本県の場合、降雪により道幅が狭くなったり、歩道の認識が出来なくなるなど、交通量の多い都会とは違った問題点がある。歩行者側の避けるという意識も必要であるが、安全対策もしっかりと取り組んでもらいたい。</p>